

まるこやま

第89号

令和7年1月22日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130



E-mail:daito-c@daito-center.org
<http://user.yoitoko.jp/daito-c/>

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会



迎春

今年も変わらせず
よろしく願い申し上げます

前原橋方面より大東を望む！

撮影：藤内弘明

新年のごあいさつ



大東地区自治振興協議会
会長 光谷由紀子

新年あけましておめでとうございます。

穏やかに新しい年をお迎えになられたことお慶び申し上げます。

昨年中は、大東地区自治振興協議会の運営、活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年も変わりませずご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年は、大東交流センターで初めて特別天然記念物のコウノトリが巣作りをして、3羽のヒナが飛び立ちました。皆様に感動と喜びを与えてくれました。今年もと期待しております。近隣の皆様にはご協力いただきますようお願い申し上げます。

自主組織では、振興会、福祉、生涯学習等々地域課題解決や行事や活動に取り組んでいます。引き続き皆様のご参加をお待ちしております。

また、大東高等学校の新しい寄宿舎だけでは不足が予想され、引き続き整備が大東地区で行われる運びとなりました。大東高校の発展と地域の活性化に期待しております。

そして、都市計画道路新庄飯田線東町地内の交通安全施設としての歩道整備が、今春には完成に運びとなります。お子様の通学路、高齢者の方々の通行の安全が図られると期待しております。引き続き東大橋から新庄地内に向けての歩道整備工事が着手されております。地権者の皆様や関係者の皆様に感謝申し上げます。

近年、温暖化による異常気象により自然災害が全国的に発生いたしております。交流センターも避難所の指定となっています。皆様の安全安心の拠点となるように取り組んでまいります。

新しい年を迎え、役職員一同地域の活性化と交流センターが皆様の拠りどころとなるよう努めて参ります。

終わりになりましたが、今年十二支の巳年です。復活と再生を意味すると言われております。皆様の飛躍と幸せの年でありますようお願いいたします。



かるた&ゲーム with 出雲弁

“高齢者と孫世代をつなぐキーワードは「方言」だ！”という趣旨で大東高校3年 新田晴さんが『方言脱出ゲーム』を企画してくれました。そこで昨年も好評だった『出雲弁だんだんかるた』の会に併せて1月11日(土)に開催しました。

出雲弁は言葉のなまりだけでなく、古語に由来する語彙などが豊富と言われます。温かみ、そして暮らしの知恵を感じる大切な文化。当日集まった老若男女30名ほどでたくさんの出雲弁を味わい直しました。

当日は、抹茶と和菓子を味わう時間もありました。やわらかい甘みと苦みも楽しむことができた半日でした。





大東茶でほっと一息 まったりする時間を作りたい！

大東高校2年 さかきばら 榎原 希さん



私は雲南市教育委員会主催のスペシャルチャレンジJr.プログラムに参加し、雲南の人々がお茶でリラックスする時間のきっかけを作る活動をしています。

この活動を始めた理由は、現代の人は常に手元にスマホがあり「ながら生活」になっていることで本当の休息が取れていないのではと感じたからです。また、お茶を飲む文化に親しみが無い若い世代から、コロナ禍でお茶を飲む機会が減ってしまったお年寄りの方々まで、幅広い世代に向けて日頃から心身ともに休息することを習慣にしてもらいたいと考えたからです。

そこで市内のイベントに出向き、雲南産のお茶の飲み比べや健康効果を紹介するブースを出店しました。また、家でも気軽にお茶飲みができるよう、雲南に住んでいる方のお茶飲みスタイルを取材・掲載したパンフレットを作成し、配布しました。来てくださった方々からは「お茶にこんな効果があるなんて知らなかった」という声をいただき、応援して下さって嬉しかったです。

私はプロジェクトを通して地域の方の温かさを感じました。取材やアドバイスなどの協力をして下さった藤原茶問屋さんには本当に感謝しています。

これからもこの活動を続けていきます。

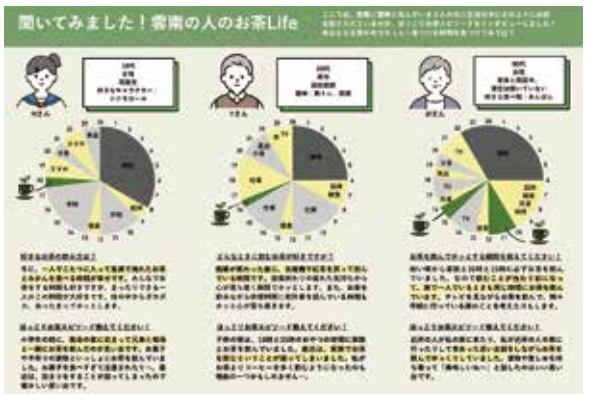
私が今年頑張りたいことは、勉強です。今年から受験生になるので今までより一層努力を重ねていかなければならないと思いました。残り少ない高校生活も、自分の夢や目標に向かって努力を惜しまず行動していきたいです。

聞いてみました！雲南の人のお茶Life



ほっこりお茶エピソードをインタビューしたものをまとめてあります。興味深いですよ！

◀こちらのQRコードからご覧いただけます！



今年の無病息災を祈り**とんど祭り**が行われました



大木原自治会長 簾 陽二

大木原自治会では、新型コロナ五類に移行した昨年よりとんど祭りを再開しました。

鼻高面を先頭に子ども達と一緒にふれ太鼓で各戸を回り、加多神社宮澤宮司様に執り行って頂き正月に迎えた神様を見送り、一年の無病息災家内安全、五穀豊穡を祈願する行事を行っております。

南本町自治会長 南波信一郎

年々すみづらくなる世の中になりませんが、本年も無事左義長を開催する事ができ自治会の団結と皆様のご多幸を祈念できた事を喜びたいと思います。



にがおめでとう
こんにちは!

年賀状の時季に想うこと

出雲大東郵便局
局長 今岡 真二



(絵: 大東町東町北 細田 滋)

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、お健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。お正月と言えば、「年賀状」と言う方は、年々少なくなってきたのかもしれませんが。ネット社会の発展に伴い手紙文化は徐々に衰退してきているのが現状です。最近では「年賀状じまい」などと言う言葉まで流行っており、郵便局に勤める身としては非常に寂しい限りです。しかし、実際にお正月に年賀状が届くとやはり嬉しいものです。私も採用当時（昭和58年頃の話ですが…）、郵便配達の仕事をしていましたが、心待ちにしているお客さま宅へ年賀状をお届けするというのは、新年の特別な行事であったように思い出します。受け取った年賀状を一通一通見ていくと、久しく会っていない旧友や若い頃にお世話になった職場の大先輩等々、お付き合い

のあった時代にタイムスリップします。「変わらず元気そうだなあ」「この先輩にはよく叱られたなあ」などと当時の出来事が頭に浮かんできます。印刷した年賀状が多い中、一筆添え書きがあるだけでもその人の想いが伝わるもので、やはり手書きは温もりを感じます。手紙文化の歴史は古く、最古のものは紀元前1600年頃、粘土板に書かれた手紙があるそうです。書状、書簡を用いて相手に意を伝えるという文化は3000年以上も継承されてきました。日本における年賀状の文化は明治32年から始まり、それ以降国民的行事となっていきました。ちなみに昭和24年に初めて発行されたくじ付き年賀はがきの1等賞品は「ミシン」だったそうです。時代を感じますね。SNS等の便利な情報伝達手段もちろん良いですが、たまには送る相手に想いを馳せ、葉書や便箋にペンを走らせてみるのも良いのではないのでしょうか。気忙しい日々の生活の中で自分の心と向き合うひと時にもなりますよ。

本年が皆様にとって輝かしい一年となりますようお祈り申し上げます。

歌謡教室、 レクリエーション 大会



大東明寿会歌謡教室が創設25周年を迎え、11月20日に「25周年記念コンサート」を開催しました。

当日は、20人のメンバーが童謡や歌謡曲などの日頃の成果を発表するとともに、ゲストに招いた「劇団おばば座」の寸劇で盛り上がりました。

11月28日には、大東明寿会の「レクリエーション大会」が開催されました。各単位クラブごとに編成した21チームが参加し、輪投げ、モルック、スカットボールなど4種目の軽スポーツで競いました。

＊暮らしと文化＊

農学校の廃校 ～ 敗れ去った「昭和の白虎隊」～

西町 青木 愛治

大正8（1919）年に開校した大東高校の前身である島根県大原郡立農業学校（以下「農業学校」）の矢田鶴之助初代校長は、帝国大学（現・東京大学）農学部の卒業で、農業学校着任前は県立農林学校の教頭職にあり、当時県内の農業教育のリーダー的存在であった。農業学校の創設に尽力した大澤豊次郎大原郡長に懇請されて校長に就任し、着任後は校舎内で寝泊まりし、二宮尊徳の「報徳訓」に基づく教育を実践して同校の礎を築いた。

生徒募集にあたっては自ら率先して勧誘に廻り、開校当初の教員もそのほとんどを矢田校長が招聘した。

矢田校長の教育方針は次の千葉敬止校長らに受け継がれ、以後、同校からは、県教育界をリードした栗間久氏、『出雲国風土記』研究の第一人者加藤義成氏らの逸材を数多く輩出し、大正12（1923）年に県に移管されて島根県立大東農学校（以下「農学校」）となって、校舎の増改築や諸設備の整備が行われた。

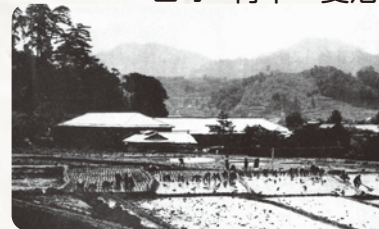
しかしながら、大正時代の末期になると、農村不況で農家が疲弊し、大正13（1924）年には三刀屋中学校（現三刀屋高校）が開校したこともあって農学校の定員割れが続くようになった。このような状況下で、一方では、雲南地域に女子の中等学校の設置を求める機運が急速に高まり、昭和3（1928）年、県はついに農学校を廃校とし、組織変更によって実業女学校を設置する方向で検討を始めた。

この動きを察知した農学校の卒業生たちは、農学校の廃止は農村の疲弊に拍車をかけるとして断固反対を表明し、郡民を対象とした署名活動や代表者による県庁及び県議会への陳情、さらには、国会や文部省（現・文部科学省）などの各省庁にも陳情を行うため1期生2名を東京に送り込んだ。代表の2名は当時文部省にいた矢田元校長にも助力を求めたが、結局はこのような懸命の存続活動も功を奏さず、昭和4（1929）年3月県立大東高等実業女学校の創設が決まった。

廃校が決定的となると怒りのおさまらない一部の農学校の在校生たちは学校側へ数々の嫌がらせを繰り返したため、謹慎処分を受けたものもいたという。

この存続運動の中心メンバーの一人であった卒業生は次のような一文を残している。「運動資金にしても卒業生会の基本金のみによったため、余りにも貧弱でついに昭和の白虎隊として敗れ去ったのであります。」（八雲会会報『八雲』復刊第1号）

尚、矢田元校長は、その後、陳情活動を行った卒業生たちを教唆したとして左遷の憂き目に遭ったと伝えられている。



ご近所の助け合いで 災害を乗り越えよう

～東町自治会の避難訓練を実施しました～



東町自治会自主防災クラブ 会長 錦織 悦雄

東町自治会自主防災クラブでは11月24日に避難訓練を実施しました。この避難訓練は平成27年から毎年実施している訓練で、幼児から高齢者まで100名を超える大勢の住民が参加します。

今回は島根県東部に発生した大地震によって、家屋の倒壊や道路の陥没、電柱やブロック塀の倒壊などの状況を想定し大東小学校体育館へ避難する訓練でした。本来、東町自治会では東町公民館を一時避難所として開設しますが、近年ではご近所どうしのお付き合いが希薄になっていることもあり、訓練をとおして災害時の共助で最も大切な「ご近所の助け合い」を再認識するため、大勢が集まることのできる大東小学校体育館（指定避難所）を避難訓練の会場としています。

訓練では、自治会内の各班ごとに置いた防災リーダーが中心となって避難を行います。避難所では防災

クラブの係員が役割分担して避難者の受付や案内、防災資機材・非常食展示、講習会などを行います。今回の講習会は雲南消防署からAEDの使用法や心肺蘇生法などの救急救命法について学び、参加者には大好評でした。過去には、消火訓練や簡易担架の作成と救急救命訓練など、雲南消防署や日本赤十字社島根支部などによる様々な講習会も開催してきました。また、避難所でのプライバシー保護と安心・安全な避難生活の為に、今年度の「あいあい募金運営委員会の防災事業活動助成金」を活用して、囲みテントやエアーマットを購入し防災資機材備蓄品として展示・紹介しました。

避難訓練は災害時のみならず平時の住民間の助け合いの精神を醸成するためにも大切な活動です。東町自治会自主防災クラブでは、住民の防災意識の高揚と共助実現のために今後も継続して実施していきます。



令和7年(2025年)4月1日

施設の使用料が変わります

【大東地域交流センター(大東交流センター)】

お問い合わせ先：大東総合センター自治振興課
TEL 0854-43-8163

単位：円/時間

部屋名	使用区分	R7.3.31まで	R7.4.1から
研修室	施設使用料	1,440円	1,580円
	冷暖房料	200円	200円
会議室1	施設使用料	580円	640円
	冷暖房料	100円	100円
会議室2	施設使用料	580円	640円
	冷暖房料	100円	100円
会議室3	施設使用料	960円	1,050円
	冷暖房料	100円	100円
和室1	施設使用料	380円	420円
	冷暖房料	100円	100円
和室2	施設使用料	380円	420円
	冷暖房料	100円	100円
調理室	冷暖房を使用しない場合	580円	640円
	冷暖房を使用する場合	650円	710円
星観察室		1,100円	1,200円
多目的広場		1,100円	1,200円

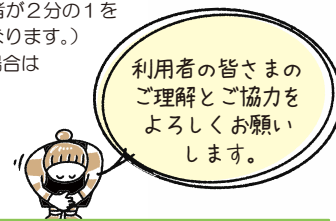
【大東ねんりんセンター】

お問い合わせ先：大東総合センター市民福祉課
TEL 0854-43-8162

単位：円/時間

部屋名	使用区分	R7.3.31まで	R7.4.1から
生涯学習室(1)	施設使用料	200円	220円
	冷暖房料	100円	100円
生涯学習室(2)	施設使用料	200円	220円
	冷暖房料	100円	100円
生涯学習室(3)	施設使用料	200円	220円
	冷暖房料	100円	100円
生涯学習室(4)	施設使用料	200円	220円
	冷暖房料	100円	100円
談話スペース(ロビー)	施設使用料	200円	220円
	冷暖房料	100円	100円

※ 実際の使用日が4月1日以降であれば新しい使用料が適用されます。
 ※ 営利を目的で市内の方が利用された場合は上記の使用料の2倍の額となります。
 ※ 市外の方が利用された場合は上記の使用料の2倍の額となります。
 (※市内に住所又は事務所がない利用者が2分の1を超えるときは、市外の方の利用となります。)
 ※ 営利を目的で市外の方が利用された場合は上記の使用料の3倍の額となります。



桜の木の枝木伐採作業にご協力ください!

丸子山を愛する会では、2月23日(日)午前9時から桜の枝の伐採作業を行います。まだ寒さの残る中ですが、皆様の参加をお待ちしています!



清掃活動参加の皆様 (R6.12.1)



図書館だより

特別整理休館 蔵書点検について

大東図書館では、所蔵している資料の状態や並べている場所を確認・整理するため、下記の日程で臨時休館します。ご不便をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

期間：2月3日(月)～2月16日(日)

※休館期間中の本の返却は返却ポスト、開館している市立図書館にお願いします。

お問い合わせ 大東図書館 Tel・Fax.0854-43-6131

○休館日：毎週金曜日・祝日・月末 ○開館時間：10:00～18:00



「大東地区振興あいあい募金」の寄付金を活用したまちづくり事業を募集します

- 金額：5万円以内の助成金
- 受付：2025年4月末

申し込み 大東交流センター内事務局
Tel.43-2130